

地域と学校との連携による持続可能な人材の育成



宮城教育大学 小金澤孝昭

はじめに

- 学校教育における持続可能な未来を担う人材育成とは？
- ・ESD 持続発展教育 総合的学習(生きる力)~学習指導要領で具体化。
- ESD=①生徒個人の力を引き出し、②基礎・基本学習を踏まえた専門的学力を高め③人と人が関われる総合的な学習能力を身につける学習過程のこと
- 持続発展教育を進める方法 ①学校教育 ②学校と地域との連携教育 ③学校関連携

1 持続可能な未来を担う人材とは？

●未来を担う人材の3つの力と学習場面

- I 持続可能な健康な心身、市民としての自覚、個人と社会との関係理解、個人の学習力(自己管理能力)～自己の管理学習 個人・家庭・学校
- II 基礎学力から専門的知識までの知識の体系、知識獲得の方法を学ぶ力～専門的学習カリキュラム 専門学力・教科学習(基礎基本)
- III 複数の教科の知識や方法論を学ぶ上で必要な相互に関連する能力～コミュニケーション力・創造力・情報受発信力・思考力の機会総合的学習・体験学習

●持続可能な社会づくり(ESD)で重要な基本概念(考える上でのポイント)

- ①多様性②相互性③有限性
- ④公平性⑤連携性⑥責任制

『多様で相互に関連しあい、かつ有限である社会を、地球市民が公平性を保ちながら、相互に連携しながら、各自の責任を果たしながら、持続可能な未来を創る』

●持続可能な未来づくりの人材育成 で重視する能力・態度

- ①批判的に考える力
- ②未来を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度

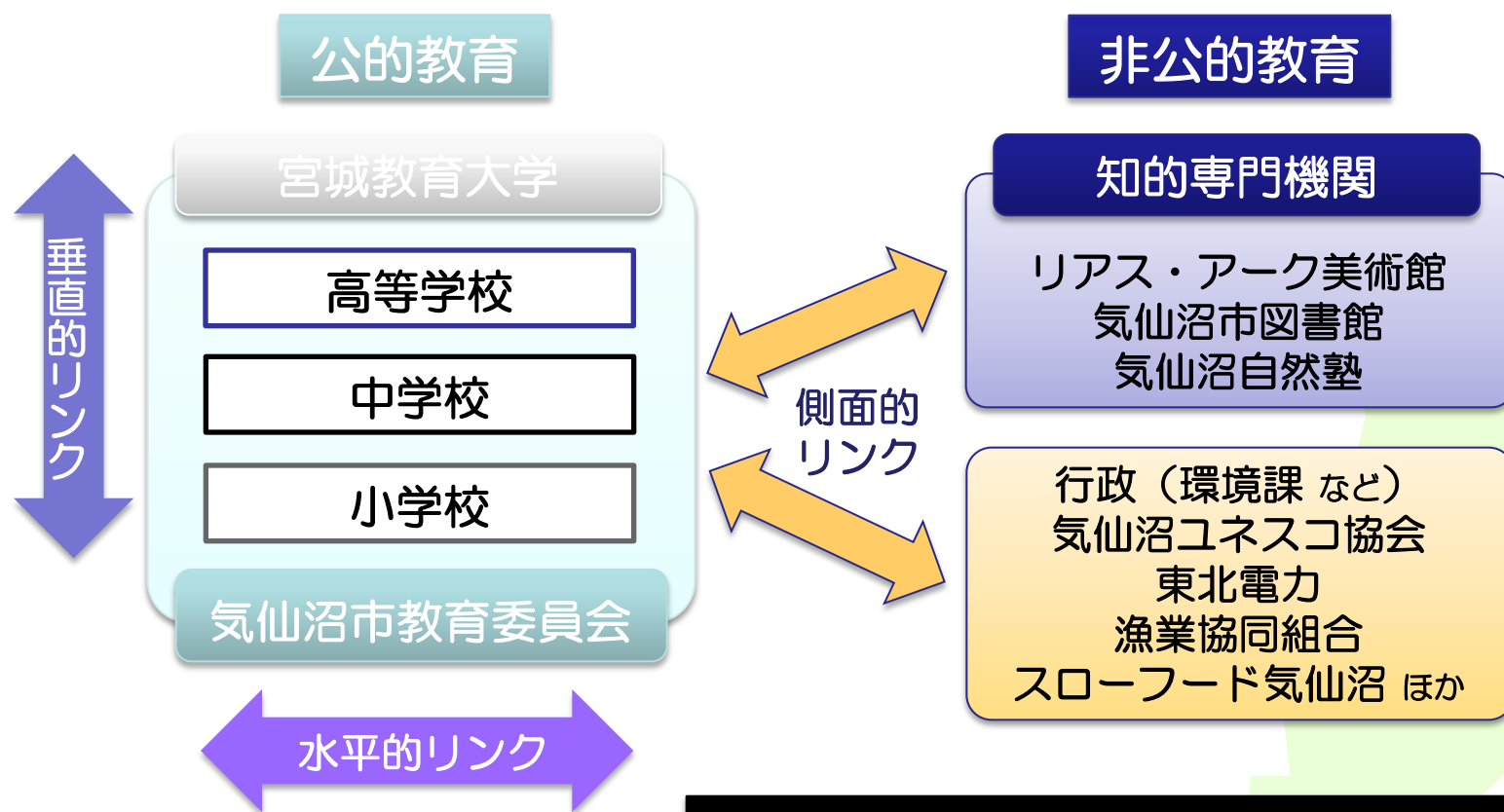
2RCEモデル~グローバル人材育成モデル ＝地域社会のコンソーシアム

- **縦軸 学校関連携 幼稚園・保育園~小学校~中学校~高等学校~大学**
- **横軸 学校~行政機関~博物館・美術館~地域社会市民・市民団体~企業**

気仙沼市の学校教育の特色



① 多彩なネットワークを活かしたプログラムの実践



気仙沼ESD/RCE推進委員会



3地域と学校の連携＝気仙沼モデル

- ・ ユネスコスクールによる持続発展教育(気仙沼市:35校)
面瀬小学校モデル2002年以降の教科学習＋総合的学習ESD

●地域を素材にしたESD(環境教育)学習

- 1)生活環境～水質調査・酸性雨調査・田んぼ探検(土壌・生態系)
- 2)資源エネルギー 森林資源調べ(森は海の恋人) 消費電力調べ 炭焼き
- 3)人と自然 川遊び、川の生き物調べ 海辺の生き物 海藻おしぼな
- 4)人と社会 地域の伝統芸能 未来のジオラマづくり 土地利用 リサイクル
- 5)人と食 スローフード 稲作体験 牡蠣養殖 塩作り

気仙沼市の学校教育の特色



②地域の特色を活かした各校独自のプログラム

月立小学校の「地域遺産教育」

養蚕
炭焼き
伝統芸能



大島中学校の「海洋環境教育」

ホタテ養殖
漂着物調査
權ねり実習



面瀬小学校の「水環境教育」

昆虫
川の生物
森と海の関係



階上小学校の「スローフード教育」

米作り
野菜作り
料理



持続発展教育(気仙沼・塩作り)



持続発展教育(気仙沼)



●地域と連携した学習

- 地域の企業(東北電力) ~エネルギー学習
- 地域の専門家(建築士会気仙沼支部)~ジオラマづくり
- 地域の漁協・農協(北かつ 農協)~まぐろ漁船体験 稲作体験
- 地域の団体(ユネスコ協会・スローフード協会)~国際交流・食教育・キッズシェフ
- 地域の行政機関など(小さな国際大使館 リアス アーク美術館)公債交流
- 地域のマスコミ~新聞記事

持続発展教育（科学館との連携）



4地域と大学との連携 ＝宮城教育大学の実践

- 体験学習の重要性
- バーチャル思考で体験がともなわない大学生の現実
- 特に教員養成では、体験学習と体験を通じたコミュニケーション学習
- 地域社会との連携の場面コミュニケーション
 - － いぐねの学校
 - － 農産物直売市と体験学習の機会提供
 - － 大学生の力を活用した地域活性化事業

いぐねの体験学習



いぐねの学校(仙台)





ご清聴ありがとうございました。

